

用語の解説

	用語	解説
ア行	愛知エースネット	愛知県内の教育機関からインターネットが利用できるようにする目的で、愛知県総合教育センターに整備した教育用ネットワーク拠点サービス。
	あいち環境学習プラザ	「愛知県環境学習基本方針」に基づき、名古屋市北区の環境調査センター内に開設された環境学習の拠点機能をもつ施設。
	アウトソーシング	企業や行政の業務のうち専門的なものについて、それをより得意とする外部の企業等に委託すること。
	アウトリーチ	地域に向かいに行う文化芸術の普及活動。例えば、教授等が学校に出かけて児童生徒に美術品等の文化資源への興味を喚起させ、また理解を深化させるための体験型の教育普及活動があげられる。
	新しい政策の指針	平成27年までの10年程度の間に取り組む政策を打ち出し、これからの愛知の方向性を明らかにする地域づくりの羅針盤。平成18年3月に策定。
	安全マップ	大人と子どもが犯罪が起りやすい危険箇所を点検し、まとめられた地図。
	eラーニング	個々の学習者が好きな場所で好きな時間に、同じ科目を一齐に学習できる環境と、教員や指導者が学習者の学習状況も随時見ることができる個別学習システム。
	イノベーション	経済や産業などの発展につながる、技術や仕組みの革新。
	インターンシップ	生徒が在学中に、企業などにおいて自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと。
	栄養教諭	児童生徒の発育において、栄養状態の管理や、栄養教育の推進をめざして平成17年から設けられた職。児童生徒が将来にわたって健康に生活できるように、学校給食を活用して栄養や食事に関して指導教育し、「食に関する望ましい習慣や自己管理能力」を身に付けさせるとともに、食に関する啓発を行う。
	A D H D	注意散漫、多動、衝動性が見られる発達障害の一つ。
	L D	「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」等のどれか、あるいはいくつか、知能に見合わないほどの障害がある発達障害の一つ。
	O J T	職場内訓練。従業員が業務を行う上で必要となる技術や能力を修得する場合、担当する業務についてそのまま訓練を受けること。
	O F F - J T	職場外研修。社外での研修による技術や業務遂行上の能力訓練のこと。
カ行	学校安全ボランティア（スクールガード）	PTA等の地域の安全活動を強化するため、ボランティア組織を結成し、児童生徒の安全確保の活動をするための取組。
	学校評価制度	各学校における教育活動等の状況について、適切に評価を行うためのシステムを構築して教育の質を保証し、不断の検証を図るとともに、学校の情報を積極的に提供して説明責任を果たしていくもの。平成14年より施行されている小学校設置基準等において、学校評価について自己評価の実施と結果の公表が努力義務化されている。
	学校評議員制度	校長が委員として委嘱した保護者や地域の人々から意見を幅広く聞き、家庭や地域との連携協力の下、特色ある開かれた学校づくりを実現していくための制度。
	キャリアデザイン	長期的に自らの職業生活（キャリア）を自らの手で主体的に描くこと。自分の能力や性格、ライフスタイルを把握した上で、ありたい将来像や

	実際の労働市場の状況などを考慮しながら、転職や異動などを通じてありたい将来像に近づいていくこと。
教育課程実施状況調査	学習指導要領の目標や内容に照らした教育内容全般にわたる全国的な定着状況の把握を通じて、学習指導要領や指導の改善のための基礎的なデータを得ることを目的として行っているもの。
教育コンテンツ	学習指導で利用できるデジタル化された素材や教材。
教科「福祉」	本県では、介護福祉士国家資格の受験資格を取得できる福祉科3校、訪問介護員を養成する生活福祉科2校、普通科福祉実践コース4校において履修している。（平成18年現在）
高機能自閉症	発達障害の一つで、社会性の障害、コミュニケーションの障害、創造力の障害などが見られる。自閉症の中で、知的発達の遅れがない場合をいう。
高等学校卒業程度認定試験	様々な理由で高等学校を卒業できなかった者等の学習成果を適切に評価し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを認定し、高等教育を受ける途を開く役割を果たす試験。
国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)	国際教育到達度評価学会(IEA)が実施している国際的な学力調査であり、初等中等教育段階における児童生徒の算数・数学及び理科についての国際比較を昭和39年より継続的に行っている。
こどもエコクラブ	環境省が都道府県・市町村との連携の下に行っている子どもたちの自主的な環境活動を行うクラブ。
こども110番の家	子どもたちが困ったときに助けを求めて駆け込める建物のこと。個人住宅・商店・郵便局など、様々な場所が指定されている。
サ行	
司書教諭	学校の図書館あるいは図書室のためにおかれる教員。平成9年、学校図書館法附則の改正により、司書教諭をおかないのは、12学級以下の学校を除いて平成15年度までとなった。
小1プロブレム	小学校に入学したばかりの小学校1年生が集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態。
障害者自立支援法	障害者及び障害児の福祉の増進を図るとともに、障害の有無に関わらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とした法律。
小中連携教育	心身の成長や変化が一生のうちで最も大きく、精神的に不安定な時期である小学校高学年から中学校において、その間の段差を適切なものとするための、9年間を見通した小中一貫性のある教育。
少年少女発明クラブ	青少年の自由闊達な想像力を尊重し、科学技術に対する夢と情熱を育み、創造力豊かな人間形成を図ることを目的として、社団法人発明協会が行っている事業。
食育推進ボランティア	一般消費者が食について正しい知識を身に付け、健全で安心な食生活を実践していくことができるよう、地域単位で情報提供等、食育を推進する活動を行う人。
私立学校振興助成法	国及び地方公共団体が行う私立学校に対する助成の措置について規定することにより、私立学校の経営の健全性を高め、私立学校の健全な発達に資することを目的とした法律。
人権週間	人権尊重思想の普及高揚を図る啓発活動を全国的に展開するための、世界人権宣言が採択された翌年の昭和24年から毎年12月10日の人権デーを最終日とする1週間。
スクールカウンセラー	学校に派遣された臨床心理学などの知識や技術を有する心の専門家で、児童生徒の人間関係やいじめ、不登校など学校生活上の悩みや心理的な問題の相談相手になるほか、保護者や教員からの児童生徒への指導の相談にも応じる。

	生徒の学習到達度評価 (P I S A)	O E C Dが実施している国際的な学力調査であり、多くの国で義務教育を修了する15歳児を対象としている (日本では高校1年生が該当)。調査分野は、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを主要三分野としており、その特徴は、もっている知識や経験を実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用する能力があるかどうかを評価するところにある。
	全国学力・学習状況調査	国の責務として一定以上の教育水準を確保するための教育の成果と課題を検証し、広い視野で教育指導の改善を図るための機会を提供するため、平成19年度に原則として小学6学年、中学3学年の全児童生徒を対象に実施するもの。
	総合型地域スポーツクラブ	子どもから高齢者まで、初心者からトップレベル競技者まで、地域の誰もが年齢、興味・関心、技術・技能レベルなどに応じていつでも活動でき、複数の種目が用意されている地域住民が主体的に運営するスポーツクラブ。
タ行	体力・運動能力調査	国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るため、毎年文部科学省において行っている調査。調査の項目は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・持久走・50m走・立ち幅とび・ボール投げである。
	多文化共生社会	国籍や民族のちがいににかかわらず、すべての住民が互いの文化や考え方を理解し、共に安心して暮らせ活躍できる地域社会。
	地方分権一括法	平成12年施行。国と地方自治体の関係を従来の「上下・主従」から「対等・協力」に転換した。「機関委任事務」の廃止、国の自治体への「関与」の廃止・縮減、国による地方自治体への「必置規制」の廃止・緩和等がなされた。
	中1ギャップ	小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじめず不登校となったり、いじめが急増するという現象。
	中高一貫教育	学校選択の幅を拡大することにより、中等教育の一層の多様化を推進するもので、中学校・高等学校の6年間のつながりのある計画的な学習を展開し、生徒一人一人の個性を重視した教育を実施するもの。県内では、平成16年度に田口高校、設楽中学校、豊根中学校、津具中学校で、連携型中高一貫教育校が設置されている。
	チーム・ティーチング	複数の教員が協力して授業などを行う指導方法。一人が授業を進め、他の一人が個別指導が必要な児童生徒に補助的な指導を行う方法など、様々な指導方法がある。
	出前講座	事業に携わる者が直接現場を訪れ、事業の内容等を伝えたり、講座での質疑応答を通じて、ニーズや生の声を聞いたりすることで、今後の施策に反映させていくこと。
	特別非常勤講師	幅広い経験をもち、優れた知識や技術等を有する社会人を学校教育において活用するもの。特別非常勤講師は、全教科の領域の一部、総合的な学習の時間の一部、道徳の一部、小学校のクラブ活動について免許状を有しない者を充てることのできることにしている。
ナ行	ニート	高校や大学などの学校及び予備校・専修学校などに通学しておらず、配偶者のいない独身者であり、ふだん収入を伴う仕事をしていない15歳以上34歳以下の個人。(内閣府「青少年の就労に関する研究調査」で用いられている定義)
	2007年問題	1947年前後に生まれた団塊の世代が一斉に定年退職を始める年に生じるノウハウの伝承問題、退職金問題など様々な問題。

	日本版デュアルシステム	「働きながら学ぶ、学びながら働く」ことにより、若者を一人前の職業人に育てる新しい職業訓練システム。
	ニュースポーツ	高度な技術や戦術を競う競技スポーツではなく、どこでも、誰でも、いつでも容易に楽しめることを目的として考案された簡易スポーツ。
	認定こども園	幼稚園と保育所の機能をあわせ持ち、さらに地域の子育て支援を行う幼保一体化施設。
	ノーマライゼーション	障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。また、それに向けた運動や施策など。
八行	バイク四ない運動	高校生のオートバイ等の利用について、昭和48年ごろから各学校の実情にあわせた「免許はとらない、買わない、乗らない」の「三ない運動」として推進され、昭和55年に「乗せてもらわない」を加えた「四ない運動」となり、現在も各学校で展開されている。
	ビオトープ	森林や湖沼、草地、河川、湿地、岩場、砂地など、その地域に住む様々な生き物が地域固有の自然生態系を構築している場所。
	フィルタリングソフト	ウェブサイト上の有害情報を遮断する目的で使用されるソフトウェア。
	福祉実践教室	障害についての話しを聞いたり、障害の疑似体験をしたりすることを通して、社会福祉に対する意識を高め、障害者への接し方を学ぶための取組。
	フッ化物洗口	フッ素入りの洗口液で口をすすぐことにより、歯の表面にフッ素イオンを作用させ、歯の質を強化するむし歯予防方法。
	フリースクール	子どもの自由や自主性、個人差などを配慮した、児童中心主義の教育を行う学校形態の総称。また、不登校児童生徒のために、その受け皿組織として作られた新しい学びの型を提供しようとする場所。
	ヘルスプロモーション	人々が自ら健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスのこと。
マ行	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満によって、肥満症や高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病が引き起こされやすくなった状態。
ヤ行	ユビキタスネットワーク社会	「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながることで、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会。
ラ行	リカレント教育	社会人が職業上の新たな知識・技術を習得するために、また日常生活において教養や人間性を高めるために必要とする高度で専門的な教育を、生涯に渡り繰り返し学習すること。
	リセット世代	自分にとって都合の良い状況を迎えると何でもリセットボタンを押すように短絡的に白紙状態に戻そうとする感覚の今時の若い世代。



愛知県教育委員会

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6827 (ダイヤルイン)
F A X 052-961-3925
ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/>